

平成30年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(藤沢中学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
藤沢中	53.3	51.4	53.3	56.5	43.8	47.7	56.5	45.9
埼玉県	55.2	55.6	61.7	58.1	51.0	59.1	65.4	58.5

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	中1		中2		中3	
		藤沢中	埼玉県	藤沢中	埼玉県	藤沢中	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	95.6	92.5	91.0	91.5	89.6	92.5
	・だれに対しても進んで挨拶をすることができる	92.3	84.0	76.0	84.4	77.9	84.6
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉づかいができる	90.1	89.6	86.0	86.5	86.0	87.9
学習習慣	・学校の宿題をしている	95.6	96.8	95.0	91.9	86.1	89.1
	・学校の授業の予習や復習をしている	80.2	73.9	75.0	62.3	59.3	57.7
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している	70.4	65.2	69.0	65.3	68.5	71.3
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き (勉強する理由として)	67.0	58.1	30.0	37.6	20.9	32.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ (勉強する理由として)	98.9	95.6	100	95.5	95.3	96.4
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	75.8	63.3	49.0	43.7	34.9	37.2
その他	・自分には、よいところがある	84.7	78.5	60.0	70.9	51.2	64.9
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	80.2	78.0	63.0	68.9	66.3	67.9
	・将来の夢や目標をもっている	94.5	88.2	75.0	74.5	69.8	71.8

藤沢中の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

- 古文・漢文に対して、正答率も古文・漢文ともに県の平均を上回る問題が多かった。
- 漢字や語句の意味を答える問題の正答率が全国平均を下回った。
- 三学年とも、資料を根拠に自分の考えをまとめる問題に対する取り組み状況が低い。

【数学】

- 1学年では問題形式「記述式」に対する正答率が平均を上回った。
- 2学年では評価の観点「知識理解」に対する正答率が平均を上回った。
- 教科等の領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」では、どの学年においても、県の平均を下回る結果となった。特に「図形」の領域は県の平均との差が大きい。

【英語】

- 4領域の中で領域「聞くこと」の正答率が、2、3年とも最も高かった。まとまった英文の内容理解は市の正答率を上回った。
- 無解答率0.0%が多く、解答しようという意識が見える。
- 2学年では、領域「書くこと」の正答率が45.8%、評価の観点「言語や文化についての知識・理解」の正答率が48.0%で、全国平均を大きく下回った。
- 並び替え問題が苦手や文章を読み問題を解くことが苦手。
- 3学年では、領域「読むこと」の正答率が45.8%、「書くこと」の正答率が33.4%で全国平均を大きく下回った。
- 3学年では、「言語や文化についての知識・理解」の正答率が39.1%で全国平均を大きく下回った。

【質問紙】

- 「規律ある態度の」の達成項目に関して、1年生では「話を聞き発表する」以外は80%を超えている。
- 「学校の授業の予習・復習をしている」は全学年県平均を上回っている。
- 「勉強を始めるとき、最初に計画を立ててから始める」生徒は全学年、県よりも低い。
- 自尊感情に関する項目で「自分には良いところがある」では、1年生では80%を超えているが、2、3年生では県平均を下回り、65%以下である。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・記述問題の回答率が低いことから、自分の考えをまとめることに苦手意識を持っている生徒が多い。
 - ①感想を書くこと
 - ②要点をまとめること
 - ③自分の言葉で意見を書くことといったスモールステップを積み重ね、自分の考えをまとめたり発表したりする力をつける。
- ・どの学年にも共通して、漢字の定着ができておらず、また語彙力不足である。小テストなどを実施しながら、間違いを復習するため、繰り返し学習し、学習習慣を身につけ、語彙力の向上をさせる。

【数学】

- ・図形領域に苦手意識を持っている生徒が多い。教材を工夫し、視覚的に状況を捉えやすくし指導する。
- ・基本的な技能の定着が不十分な生徒も多く見られる。意図的に技能を復習させ、学んだことを復習できるプリントや問題を活用し、確実な定着を図るために、家庭学習を取り組ませる。

【英語】

- ・文のつくりを正しく理解していないため、英文を書くことができない。文法を正しく理解させるために、ペアワークを行い、基本文をくり返し話し身に付けていく。そして、話すことから書くことに移行しながら正しい文法を書かせる。
- ・並び替え問題が苦手なため、語順を理解させる文章を読み問題を解くことが苦手なため、単語の意味を理解させる。そこで小テストを行い理解度を深め、更に「語順トレーニング」を行うことで語順を理解させる。
- ・文章を読み問題を解くことが苦手なため、ワークシートを基に、長文の読み取りシートを作成する。自分で読みとれるようにし、長文になれさせ、理解できるようにして自信をもたせる。

【その他】

本校の生徒は、学校生活に対して充実を感じている生徒が多い半面、所属感や自己肯定感が低い。学力の伸びについては、上位層と下位層に伸びが見られるが、中間層の伸びが弱い。今後、下位層に対する支援は継続しつつ、中間層に対する対応も増やしていく。生活の中で具体的な活用場面を授業で捉え、学習の必要感や意欲の向上につなげ、基礎学力の定着につなげる個々の生徒の力に合わせた学習プリント等を積極的に提供する。

質問項目で「予習復習をしている」生徒が多く、学校の学習への関心はあるが学力の定着が図れていない。学力下位層に対しては、学習習慣化を図り、ワークやプリント学習などを行い、家庭学習へとつなげ、基礎学力の定着を図る。中間層の生徒に対しては、授業でねらいを分かるように掲示し、見通しを立てられるようにする。学習の計画を立てる力をつけさせる。指導法の見直しが必要である。特に、生徒に学習計画を立てることができるよう指導し、見通しが持てる授業を実践する。

自尊感情を高め、学力を向上させるために、「基本的な学習」の積み重ねを行い、「できた」を経験させたい。また、学校行事、各教科で語り合う場面を意図的に設定し、所属感や自己有用感を高められるようにしたい。